

【週刊タバコの正体】

Vol.39 第4話～第7話

2018/02 和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 39

(No. 537) 第4話 身近なCOPD

—喫煙者の多くが患う可能性があるCOPD...

タバコを吸い続けると、身体さまざまな臓器や器官に悪影響を与えます。すでに、血管が痛むことはたびたび紹介してきましたので、それが“心筋梗塞”や“脳梗塞”などの原因となる事を知ってもらいましたね。

そこで今回は、タバコの煙が直接吸い込まれる肺の病気を紹介します。左図にあるような症状がある人はCOPD（慢性閉塞性肺疾患）と呼ばれる病気かもしれません。

(No. 538) 第5話 COPDの肺

—タバコを吸い続けるとこんな肺になってしまう事...

何十年もタバコを吸い続けるとCOPD（慢性閉塞性肺疾患）になる確率が高くなります。かつてCOPDは「肺気腫」や「慢性気管支炎」と呼ばれ、肺胞や気管支が壊される病気です。左の写真は肺のCT画像ですが、非喫煙者の正常な肺に比べ、喫煙歴が長い人の肺は模様が変わっていますよね。

さらに、正常な肺は膨らんだり縮んだりして呼吸をしているのに対し、COPDの肺は息を吐こうとしても吸おうとしても大きさが変わりません。つまり、呼吸ができないわけです。怖いですよね。こんな肺になってしまうのを覚悟してタバコを吸い始めるでしょうか。今さらタバコに手を出す必要はありません。

(No. 539) 第6話 従業員の健康

—「うちの会社にはタバコはない」という企業の姿...

従業員の喫煙による健康被害やタバコを吸うための時間などの損失を金額に換算すると、たとえば右のような結果となります。これは一例なので、どの事業所でもこれだけの損失がでるわけではありませんが、喫煙による病気での欠勤や、タバコを吸うために作業が中断する事は確実に労働の損失につながります。

このような状況は経営者にとって好ましい事ではありません。だから、最近では会社経営において従業員の健康管理を重視する企業が増えてきました。じつは、そんな企業を経済産業省が認定する「健康経営優良法人認定制度」という制度があるのです。

(No. 540) 第7話 非喫煙優良体

—「非喫煙優良体」とは生命保険の保険料を算定する...

喫煙習慣がある人は健康を損なう確率が高くなります。だから、病気になる可能性はタバコを吸わない人に比べると高くなるのは当然です。そこで、下の図を見てください。じつは病気になる確率が高い人とそうではない人では、生命保険の保険料に差があるのです。

保険料は対象となる人の死亡リスクによって決まるので、以前から若い人に比べ年齢の高い人の方が保険料は高く設定されていました。しかし、同じ年齢でも健康状態が同じだとはいえません。特に喫煙者は非喫煙者に比べ死亡リスクが高いとする認識が一般的となってきたので左図のような分類ができ、最も保険料が安い分類が「非喫煙優良体」と呼ばれています。

2018 39 週刊 タバコの正体 第4話



タバコを吸い続けると、身体さまざまな臓器や器官に悪影響を与えます。すでに、血管が痛むことはたびたび紹介してきましたので、それが“心筋梗塞”や“脳梗塞”などの原因となる事を知ってもらいましたね。



そこで今回は、タバコの煙が直接吸い込まれる肺の病気を紹介します。左図にあるような症状がある人はCOPD（慢性閉塞性肺疾患）と呼ばれる病気かもしれません。

COPDの最大の原因はタバコで、患者の実に90%が喫煙者だと言われています。一番上のイラストのような初期症状では全く気付かない人が多いのですが、タバコの有害物質が何十年かけて少しずつ肺の中の“肺胞”や“気管支”を壊していきます(下図)。すると、上の表にあるように息切れがひどくなり(重症)、放っておくと日常生活ができなくなるほどの呼吸不全(最重症)に陥ります。

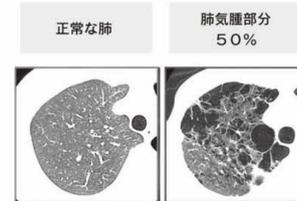


タバコと言えど肺ガンを患う人が多くは多いと思いますが、平成26年度の厚生労働省の調査によると、肺がんの患者は約14万人、対してCOPDは約26万人とCOPDの方が2倍近く多いのです。そして、この約26万人は治療を受けている人の数で、治療を受けていない軽症や中等症の人は含まれていません。じつは、それらの人も含めると、なんと患者数は500万人を超えると推計されています。だからCOPDは、かなり身近なタバコによる病気なのです。

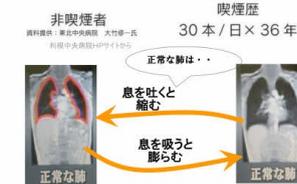
タバコを吸い続けても、その影響は表面にすぐにはあわれみません。だから危機感を持つことが難しく、それがタバコの怖さなのです。何十年か後に「タバコさえ吸い始めていなければ...」と後悔することと思うと、今タバコに手を出さない事なんて、すくく簡単にはできる事ですね。



2018 39 週刊 タバコの正体 第5話



何十年もタバコを吸い続けるとCOPD（慢性閉塞性肺疾患）になる確率が高くなります。かつてCOPDは「肺気腫」や「慢性気管支炎」と呼ばれ、肺胞や気管支が壊される病気です。左の写真は肺のCT画像ですが、非喫煙者の正常な肺に比べ、喫煙歴が長い人の肺は模様が変わっていますよね。



さらに、正常な肺は膨らんだり縮んだりして呼吸をしているのに対し、COPDの肺は息を吐こうとしても吸おうとしても大きさが変わりません。つまり、呼吸ができないわけです。



怖いですよね。こんな肺になってしまうのを覚悟してタバコを吸い始めるでしょうか。今さらタバコに手を出す必要はありません。



毎週火曜日発行



URL: http://www.jascs.jp/truth_of_tobacco/truth_of_tobacco_index.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
 ※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
 ※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。

